

短期NZドル債オープン（資産成長型）

追加型投信／海外／債券

第4期 2016年3月7日決算

作成対象期間（2015年9月8日～2016年3月7日）

第4期末（2016年3月7日）	
基準価額	9,342円
純資産総額	274百万円
第4期	
騰落率	+4.4%
分配金	0円

受益者の皆様へ

毎々、格別のお引き立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

さて「短期NZドル債オープン（資産成長型）」は、このたび、第4期の決算を行いました。

当ファンドは、短期NZドル債マザーファンドへの投資を通じて、高格付けのニュージーランド・ドル建ての公社債および短期金融商品へ実質的に投資することにより、安定した利息収益の確保を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

◆運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

◆当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）については、以下の手順で閲覧およびダウンロードすることができます。

<閲覧方法>

下記ホームページアドレスにアクセス⇒「ファンド情報」を選択⇒「ファンド検索」を選択⇒「ファンド名で検索」にファンド名を入力⇒該当のファンドを選択⇒「運用実績・レポート」を選択⇒「運用報告書（全体版）」を選択

ホームページアドレス <http://www.daiwasbi.co.jp/>

お問い合わせ先

受付窓口：（電話番号）0120-286104

受付時間：午前9時から午後5時まで（土、日、祝日除く。）

※お客様のお取引内容につきましては、ご購入された販売会社にお問い合わせください。

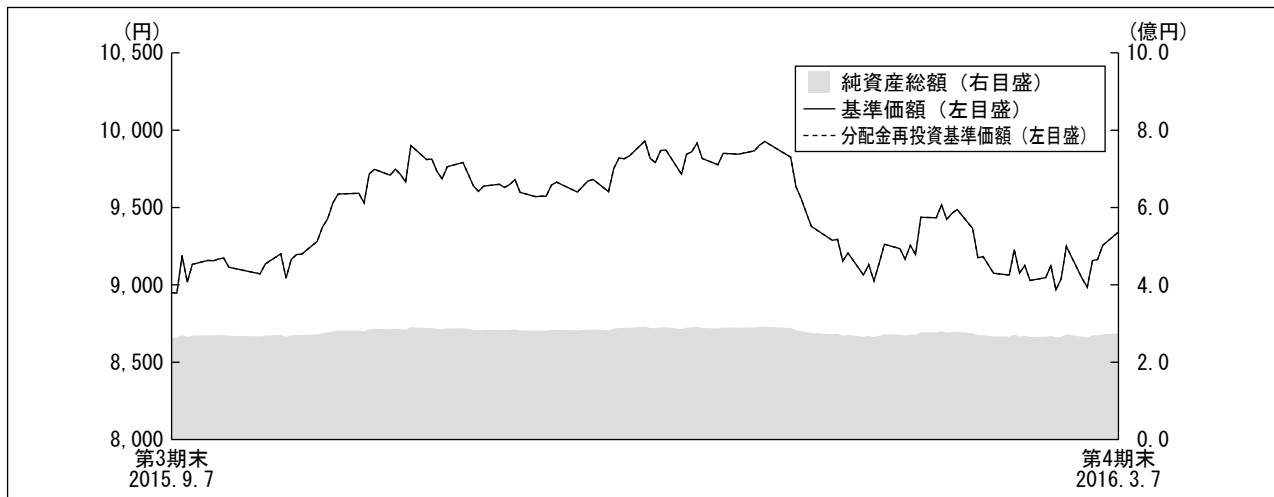


大和住銀投信投資顧問

Daiwa SB Investments

運用経過

【基準価額等の推移】



*当ファンドにはベンチマークはありません。

*分配金再投資基準価額は、期首の基準価額を基準に算出しております。

*分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

*分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

第4期首：8,950円

第4期末：9,342円（既払分配金 0円）

騰落率：+4.4%（分配金再投資ベース）

【基準価額の主な変動要因】

当ファンドは、短期NZドル債マザーファンドへの投資を通じて、高格付けのニュージーランド・ドル建ての公社債および短期金融商品へ投資を行いました。

（上昇要因）

ニュージーランドドルが期首の74.80円から期末に77.21円へ上昇したことに加え、ニュージーランド債券の利回りが低下（債券価格は上昇）したことが上昇要因となりました。低迷が続いていた乳製品価格に底入れの兆しが見え始めたことや、企業や家計の景況感が回復したことを受けて、ニュージーランドドルは対米ドルで堅調に推移しました。2016年の年明け以降は、原油安や中国経済への懸念の高まりを受けて世界的に金利が急低下し、ニュージーランド債券の利回りもこの動きに連動して低下（債券価格は上昇）し、プラスに寄与しました。

【1万口当りの費用明細】

項目	当期		項目の概要
	2015年9月8日～2016年3月7日		
	金額	比率	
信託報酬	57円	0.606%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は9,489円です。
（投信会社）	(28)	(0.295)	ファンドの運用等の対価
（販売会社）	(28)	(0.295)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（受託会社）	(2)	(0.016)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
その他費用	8	0.088	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	(8)	(0.082)	海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(1)	(0.005)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	66	0.693	

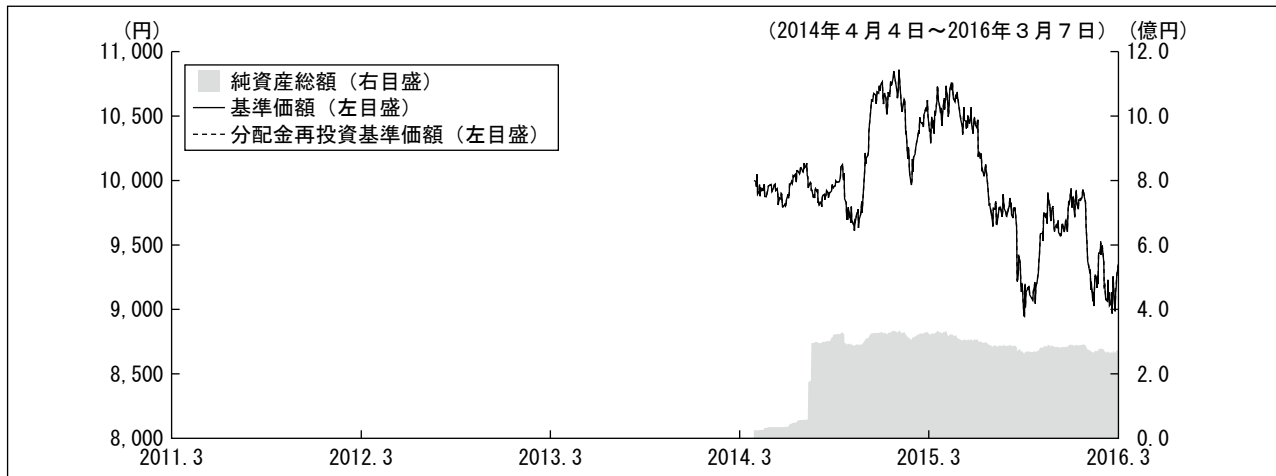
* 「比率」欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

* 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む。）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

なお、その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託受益証券が支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含まず。

* 各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

【最近5年間の基準価額等の推移】



*当ファンドの設定日(2014年4月4日)より表示しております。

*設定日の基準価額は設定価額を、純資産総額は当初設定元本を表示しております。

*当ファンドにはベンチマークはありません。

*分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

*分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

	2014年4月4日 設定日	2015年3月9日 決算日	2016年3月7日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,378	9,342
期間分配金合計(税込み) (円)	—	10	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	3.9	△10.0
Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (円換算) 騰落率 (%)	—	3.7	△9.0
純資産総額 (百万円)	25	323	274

*Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (円換算) は当ファンドの参考指数です。参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しています。

●参考指数に関して

*Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (円換算) とは、Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (ニュージーランドドルベース) を委託者が円換算したものです。

*海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

【投資環境】

当期のニュージーランド債券市場は、低迷が続いていた乳製品価格が底入れしてニュージーランドドルが上昇に転じた中、2016年の年明け以降に市場でのリスク回避の姿勢が一段と強まり、世界的に国債利回りが低下した影響を受けて堅調に推移しました。

2015年8月下旬に乳製品の国際入札価格が上昇に転じたことで企業や家計の景況感が回復したことや、6月から続いたニュージーランド準備銀行（RBNZ）による利下げが景気を下支えし、ニュージーランドドルは堅調に推移しました。市場の関心は米国の利上げ開始時期に集中し、12月に利上げが実施されるまでは米国債利回り上昇の影響を受けてニュージーランド債券の利回りも上昇（債券価格は下落）しました。しかし、2016年の年明け直後から中国株の急落を発端に中国経済の減速に対する懸念が再燃し、また、原油価格が底割れしたことや市場でリスク回避の姿勢が一段と強まったことから世界的に債券利回りが低下しました。1月末には日本銀行のマイナス金利導入がサプライズとなり、円高が進行しニュージーランドドルは対円で下落に転じましたが、3月に入り小幅反発して期を終えました。

【ポートフォリオ】

■短期NZドル債オープン（資産成長型）

主要投資対象である短期NZドル債マザーファンドを期を通じて高位に組み入れ、期末の実質的な公社債組入比率は95.5%としました。

■短期NZドル債マザーファンド

当期の騰落率は、+5.0%となりました。

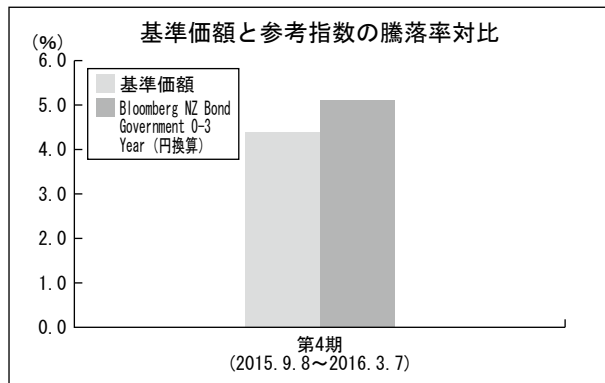
世界市場の動向や、金融政策の方向などを見極めつつ機動的にデュレーション*をコントロールしました。

期初から2015年10月までは、ウィーラーRBNZ総裁が9月に利下げを決定した際の記者会見で大幅利下げの可能性を示唆したことから、デュレーションを2.4年程度へ長期化したものの、乳製品価格が堅調に推移しニュージーランド国内の経済指標が改善したため、10月下旬に2年程度に短期化しました。年末にかけては、米国の利上げ開始に焦点が集まり、米国債利回り上昇の影響を受けてニュージーランド債券の利回りも上昇したことや、12月のRBNZ会合で短期金利見通しが現状の水準に据え置かれ緩和姿勢がやや後退したため、デュレーションをさらに短期化し1.9年程度としました。2016年の年明け後は、中国経済などへの懸念や原油安を背景にリスク回避の姿勢が強まる中、市場の変動が激しくボラティリティが急激に高まったことや市場での利下げ織り込み幅はやや行き過ぎと判断し、デュレーションを小幅短期化し1.5年程度としました。

*デュレーションとは、「投資元本の平均的な回収期間」を表す指標で、単位は「年」で表示されます。また、「金利の変動に対する債券価格の変動性」の指標としても利用され、一般的にこの値が長い（大きい）ほど、金利の変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

【ベンチマークとの差異】

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率の対比です。



【分配金】

収益分配金につきましては、分配可能額、基準価額水準等を勘案し、見送りとさせていただきます。
なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用を行います。

■分配原資の内訳

(1万口当り・税引前)

項目	第4期	
	2015年9月8日 ~2016年3月7日	
当期分配金 (円)		0
(対基準価額比率) (%)		0.00
当期の収益 (円)		—
当期の収益以外 (円)		—
翌期繰越分配対象額 (円)		817

※当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

■短期NZドル債オープン（資産成長型）

引き続き、運用の基本方針に従い、マザーファンドへの投資を通じてニュージーランドドル建ての高格付けの公社債および短期金融商品に投資を行うことにより、安定的な利息収益の確保と中長期的な信託財産の成長を目指します。

■短期NZドル債マザーファンド

RBNZは、2016年の年初からの国際金融市場の緊張や相次ぐ他国の金融緩和に同調して3月に追加利下げを実施し、政策金利を2.25%としました。今回の利下げで2015年6月以来の政策金利の引き下げ幅は合計で1.25%となりました。一連の緩和策により、乳製品市況の悪化に伴う企業や家計の景況感の落ち込みが最小限にとどまり、過熱していたオークランド住宅市場についても規制が強化されたことで鎮静化しており、景気への先行き懸念は払拭されています。また、足元では中国の金融市場が安定し原油価格の底入れ観測が強まりつつあり、今後は市場のリスク回避姿勢がはっきりと回復に向かえば、良好なニュージーランド経済が見直され、行き過ぎた金利低下が修正される可能性が高いと考えています。したがって、金利リスクに関しては当面、抑制的なスタンスを維持し、金利水準を見極めながら機動的にコントロールしていく方針です。投資銘柄に関しては、国債のほか、地方債や国際機関債等のカウリ債（非居住者が発行するニュージーランドドル建ての国内債）へ分散投資を行う方針です。

お知らせ

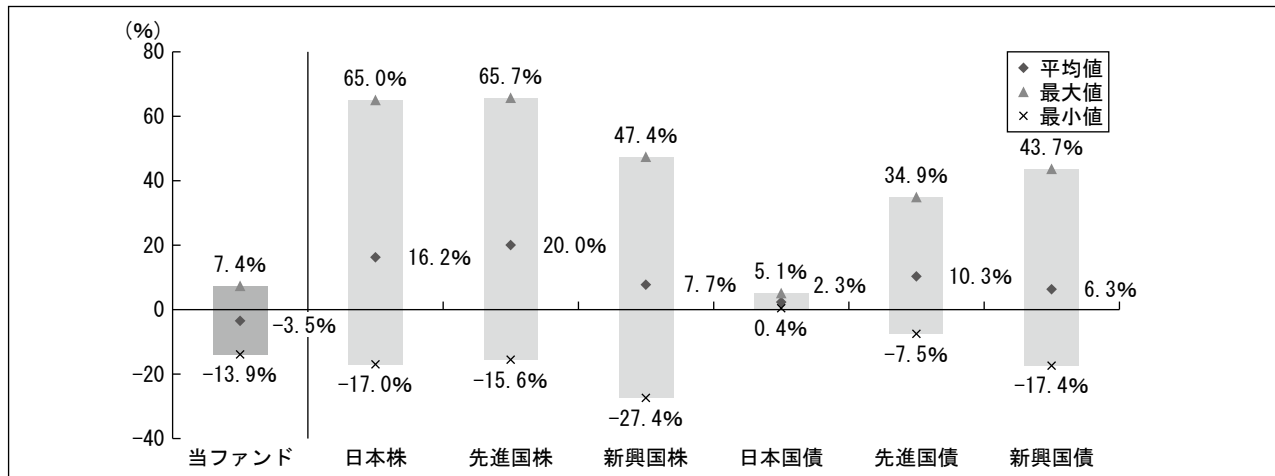
該当事項はございません。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	2014年4月4日～2024年4月8日（約10年）	
運用方針	マザーファンドへの投資を通じて、ニュージーランド・ドル建ての高格付けの公社債および短期金融商品に投資を行うことにより、安定的な利息収益の確保と中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	短期NZドル債マザーファンド受益証券
	短期NZドル債マザーファンド	ニュージーランド・ドル建ての高格付けの公社債および短期金融商品
当ファンドの運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・運用はファミリーファンド方式で行います。 ・ファンド全体のデュレーションは、原則として3年未満とします。 ・原則として為替ヘッジは行いません。 	
分配方針	<p>毎年3月、9月の7日（休業日の場合は、翌営業日）の決算日に、収益分配金額は経費控除後の利子・配当収益および売買益（評価損益も含まれます。）等の中から、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には分配を行わないことがあります。</p> <p>* 分配金自動再投資型の場合、分配金は税金を差し引いた後自動的に無手数料で再投資されます。</p>	

【当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較】

当ファンド：2015年4月～2016年2月
 代表的な資産クラス：2011年3月～2016年2月



●上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

*当ファンドと代表的な資産クラスのデータの期間が異なりますので、ご注意ください。

*全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

*騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

＜各資産クラスの指数について＞

資産クラス	指数名	権利者
日本株	TOPIX（配当込み）	株式会社東京証券取引所
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）	MSCI Inc.
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）	MSCI Inc.
日本国債	NOMURA-BPI国債	野村証券株式会社
先進国債	シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）	Citigroup Index LLC
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）	J.P.Morgan Securities LLC

（注）上記指数に関する著作権等の知的財産権およびその他一切の権利は、各権利者に帰属します。各権利者は、当ファンドの運用に関して一切の責任を負いません。

当該投資信託のデータ

〈〈当該投資信託の組入資産の内容〉〉

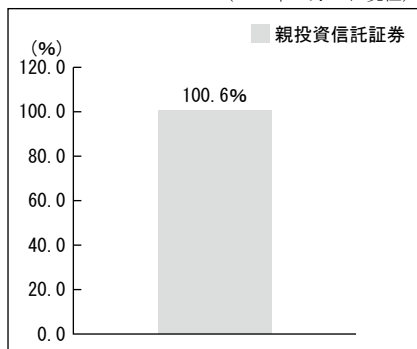
【組入ファンド】

	第4期末（2016年3月7日）
	組入比率
短期N Z ドル債マザーファンド	100.6%

*組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

【資産別配分】

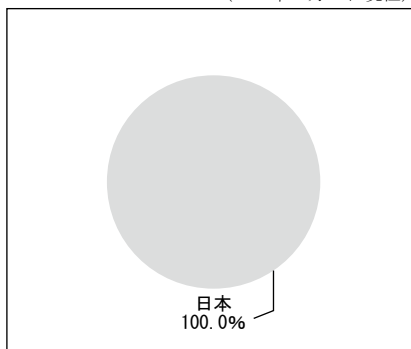
(2016年3月7日現在)



*純資産総額に対する評価額の割合

【国別配分】

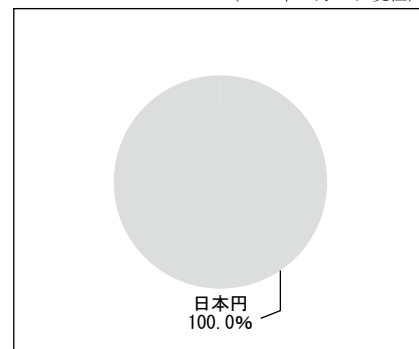
(2016年3月7日現在)



*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

【通貨別配分】

(2016年3月7日現在)



*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

【純資産等】

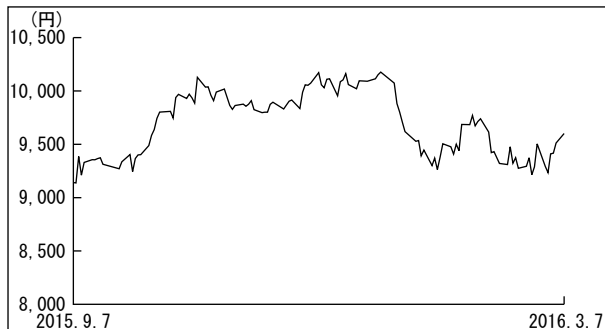
項目	当期末
	2016年3月7日
純資産総額	274,764,666円
受益権総口数	294,120,450口
1万口当り基準価額	9,342円

*当期中における追加設定元本額は1,980,672円、同解約元本額は2,054,266円です。

<<組入ファンドの概要>>

■短期NZドル債マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当りの費用明細】

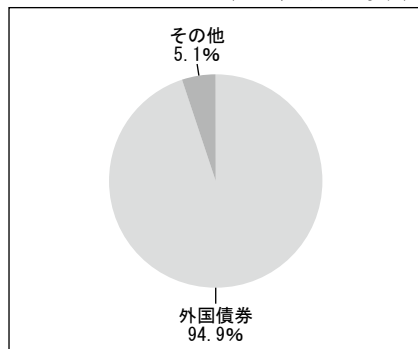
(2015年9月8日～2016年3月7日)

項目	金額
その他費用 (保管費用)	8円 (8)
合計	8

*費用項目については、2ページの項目の概要をご参照ください。
 *期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む。）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
 *円未満は四捨五入しています。

【資産別配分】

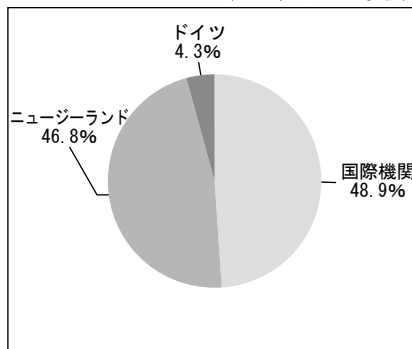
(2016年3月7日現在)



*純資産総額に対する評価額の割合

【国別配分】

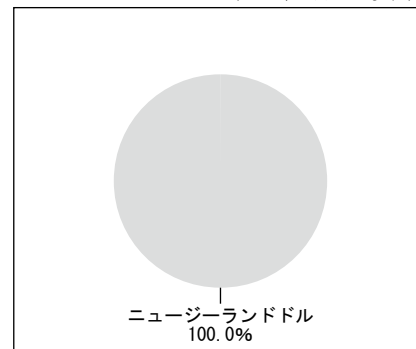
(2016年3月7日現在)



*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

【通貨別配分】

(2016年3月7日現在)



*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

【組入上位銘柄】

(2016年3月7日現在)

銘柄名	通貨名	比率
1 NEW ZEALAND GOVERNMENT 6 12/15/17	ニュージーランドドル	20.9%
2 EUROPEAN INVESTMENT BANK 7.5 12/15/17	ニュージーランドドル	18.0%
3 INT BK RECON & DEVELOP 4.5 08/16/16	ニュージーランドドル	12.9%
4 NZ LOCAL GOVT FUND AGENC 6 12/15/17	ニュージーランドドル	10.4%
5 COUNCIL OF EUROPE 7.5 04/30/18	ニュージーランドドル	5.4%
6 INTL FINANCE CORP 6.25 12/15/17	ニュージーランドドル	5.2%
7 ASIAN DEVELOPMENT BANK 4.125 10/28/16	ニュージーランドドル	5.0%
8 NEW ZEALAND GOVERNMENT 6 05/15/21	ニュージーランドドル	4.6%
9 NZ LOCAL GOVT FUND AGENC 6 05/15/21	ニュージーランドドル	3.3%
10 LANDWIRTSCH. RENTENBANK 4 01/30/20	ニュージーランドドル	3.0%

(組入銘柄数 14銘柄)

*比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

*全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

※ 基準価額の推移、1万口当りの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

※ 資産別配分、国別配分、通貨別配分、組入上位銘柄は組入ファンドの直近の計算期間末日のものです。



世界に通用する質の高い
資産運用会社を目指します